

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500028
法人名	社会福祉法人 建昌福祉会
事業所名	グループホーム西始良ほほえみ
所在地	鹿児島県始良市西始良1丁目39番32号 (電話) 0995-73-7855
自己評価作成日	令和2年3月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のこれまでの暮らしぶりが入居した後も継続できるように支援することを大事にしている。

例えば、これまで行きつけであった病院や理美容室、お店、行き来のあった友人や近所の方々、民生委員をはじめとした協力者との関係性は、本人のこれまでの暮らしの中から築き上げられた重要な財産であり、グループホームに入所したからといって途絶えるものであってはならない。また、私たち職員が無意識的に断ち切ってしまうということもない。関係性を継続させることや過剰な管理・無駄な制限を取り払う努力をしていくことで、私たちが掲げている理念「毎日をその人らしく」に近づけると考える。

また、日々の暮らしの中で、これまで行ってきた生活行事であるあくまき作り、そば打ちなど、様々な作業を通じて、人に自分の体験や技術を伝えるということが、「役割」や「やりがい」を感じてもらえる機会となると考える。普段の生活においてもできる事に着目し、まだまだできることはある事を認識してもらい、入居者の可能性を信じて支援にあたっている。これらの事も理念の具現化につながるのではと考えて取り組んでいる。「ほほえみ職員心得十か条」の具現化に向けた研修等も実施し、職員自身が入りたいと思える施設づくりに取り組んでいる。隣接している学童クラブにしあいらひまわり子ども園、西始良小学校との交流、地域の方々との交流を積極的に実施している。特にひまわり子ども園との交流は、入居者が楽しみにしている行事となっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地から数km程離れた始良ニュータウン地区の一角に平成25年に開設されており、小学校、認定こども園、児童クラブに隣接している。ホームからは団地の家並みや雑木林が眺められ、閑静な中に四季を感じながら平穏に過せる環境である。

開設以来、自治会に加入して地域との交流に積極的に取り組んでおり、総会や回覧板で地域の情報を把握し、地域の夏祭り等には準備段階から、また、運動会や清掃活動にも積極的に参加している。隣接の認定こども園の児童とは日常的に触れ合い、施設見学、ボランティアの受け入れ、友人知人の来訪、散歩、買い物時の会話等の交流は利用者の楽しみとなっている。

管理者及び職員は、ホーム独自の理念やケアの姿勢「職員心得十か条」を玄関や事務室、リビング等に掲示し、朝礼で唱和も行って周知を図り、利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら、理念「いきがいを持って、毎日をその人らしく」となるように努めている。利用者や家族の意向や要望等に対しては、ミーティングやカンファレンス時に協議して改善を図っており、家族との協力体制や信頼関係が築かれている。日々の生活も利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、無理強いしないで利用者の主体的意向に添って柔軟に対応している。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える関係を構築している。職員の意見や個人的事情等に十分配慮しながら、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップに努めている。また、法人による職員の研修体制や外部研修受講時の受講料等の助成及び勤務時間への配慮、給与等の体制も構築されて職員の勤労意欲向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に読み合わせを行っている。職員心得十か条を作成し、検討会等の際に念頭に置き、話し合いを実施するようにしている。	基本理念に「生きがいを持って、毎日をその人らしく」を掲げ、ケアの姿勢「職員心得十か条」も定めて、利用者及び家族が望む暮らしの実現に取り組んでいる。朝礼で唱和し、ミーティング等で振り返りや意見交換を行って理念の共有と理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させていただき、定期的な回覧版を持って届けたり、認知症の勉強会を開催したり顔が見える関係づくりをしている。また、自治会行事にも参加している。	町内会に加入し、総会や回覧板で地域の情報を把握し、夏祭りには準備段階から取り組み、また、運動会や清掃活動等にも積極的に参加している。日頃の散歩や友人・知人の来訪、買い物時には地域の人と会話し、認定こども園の児童との触れ合いや施設見学、ボランティア(踊り、楽器演奏他)の受け入れ、農産物を頂く等、円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症の勉強会を開催し、認知症の理解を深められるようにしている。また、利用者と一緒に散歩をしていると挨拶したり、されたりの良好な関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に自治会長、コミュニティ協議会会長、民生委員、地域包括職員、市役所職員、認定こども園園長、ご家族様に呼びかけて、運営推進会議開催している。事業所の取り組みやそれぞれから意見を頂きより一層質の高いサービスへつながるように生かしている。	会議は、家族、自治会長、民生委員、コミュニティ協議会会長、市担当職員、認定こども園職員等が参加して定期的に開催し、利用者の状況や行事計画、ヒヤリハット等を報告している。また、市職員から介護保険の改正点等の説明があり、委員からは地域の情報や認知症ケア、防災に関する質問・意見も出されている。職員は会議の内容を共有し、ミーティング等で協議してサービスの改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加をお願いし、認知症への理解や周辺の施設動向、加算等についてのご助言等を頂いている。	市の担当者とは、運営推進会議に出席してもらい、ホームの状況の理解を得ている。また、電話や訪問で利用者のケアやホームの管理運営、各制度の相談を行い助言・指導をもらう等、かねてから協力関係を築いている。行政や地区グループホーム連絡協議会主催の会合や研修会に積極的に参加して意見や情報の交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には夜間以外は、施錠をせずに、可能な限り利用者の行動に合わせた支援を行っている。また、室内においても、過剰な制限や管理が働かないように、ご家族を含め自由な出入りを意識する等外からの目も意識している。	身体拘束に関しては運営規定に明記し、計画的な研修の実施や3か月毎に委員会を開催して、言葉づかいやケアの振り返り、具体的事例による研修及び意見交換等を行って、拘束のないケアに取り組んでいる。日頃から身体拘束、高齢者虐待に関する報道も話題にして職員の認識を共有している。日中は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添い、散歩への同行等で安定を図るなど、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の声や表情、身体の傷等がないか確認すると共に、我々職員が加害者にならないように勉強会や普段からのミーティング等で虐待とは何か話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等を利用している利用者が1名と。社会福祉協議会による日常生活自立支援事業を利用している利用者が1名いる。他、今後対象者がでてくる可能性があるため、スムーズに繋がられるよう勉強している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正等で内容が変わる場合には、適宜、家族懇談会を開催したり、別紙説明書類を作成し説明にあたって、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として年1回、苦情要望の第三者委員を交えた検討会議を実施するように定めており、苦情要望の内訳数値を公表するようにしている。またそれを基に支援内容等の見直しを行っている。	利用者の想いは、日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から理解に努め、家族からの意見、要望は来訪時の会話や電話、家族会(年1回)、運営推進会議、近況を伝えるお便りの送付等、工夫して把握に取り組んでいる。出された意見・要望は、ミーティング等で協議して運営やサービスの改善に取り組んでおり、第三者委員も出席する法人の検討会議でも公表している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティング等で自由な意見を求めている。利用者の視点、優先順位等を考えながら改善を図っている。まずはやってみて上手いかなければ改善。相手の意見を否定しない。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努めて意見や要望を把握し、協議しながら改善を図っている。また、ケアに関する助言や研修の実施、資格取得へのバックアップ等に努め、個人的事情にも配慮して勤務シフトを作成する等、信頼と協力関係が構築された働きやすい職場づくりに取り組んでいる。法人全体の検討会議や内部研修の実施、外部研修の受講料等の助成、給与体制等は職員の意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会、勉強会を企画し定期参加を促している。また、実践研究会を開催し、法人全体の前で取り組みを発表する場を設け、モチベーションアップにつなげている。職場環境において、処遇改善、定時退勤を実施している。資格取得にも力を入れ、合格者には祝い金の支給がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の支援、OJT、実践研究発表の取り組み、法人の階層別研修に参加し、取り組んでいる。また、外部研修にも参加し質向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会や連絡会、他法人のセミナー等に参加し、意見交換やイベント企画を通して地域連携を目的とした取り組みを実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談等を積み重ねながら顔見知りの関係を構築するように配慮し、不安や心配事の軽減を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の施設に預けてしまったという後悔や申し訳なさを受け止めつつ、ご家族にできることはご協力をもらいながら共にご本人の支援をしていくことで信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話をしながら何が当面大事なのかを共に考えながら優先すべきことを決定するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちやタイミングを大事にしながら「できる」ことで貢献してもらえる機会を作るようにしている。また、出来たことに対してしっかり感情に訴えかけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との接点はできるだけ多くしてもらおうようにしている。必要であれば一緒に泊まってもらうことも承諾している。比較的家族の来所は多いと思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冠婚葬祭の行事にはできるだけ参加することを奨めている。また、行き慣れたお店や理美容室等も出かけたり、ご友人の面会も奨めている。地域のサロンにも出かけて関係の継続を図っている	入所時の聞き取りや日頃の利用者の会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や意向に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事、美容室、地域のサロン等に家族の協力を得ながら出かけている。家族、友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るように配慮し、電話・手紙の取り次ぎや園便り、写真を添えた手紙で近況を伝える等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の潤滑油になれるように職員が介入している。しかし、お互い認知症があり擦れ違いも多くあるので、タイミングやイベント事等アクションも大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退去になったご家族や亡くなった後のご家族のフォローを行っている。また、継続的な支援の必要性があれば、フォローにあたっていく。迷惑でなければ通信等を郵送している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や検討会の際は、ご本人のこれまでの暮らしぶりの情報を集めると共に、繰り返される言動から上手く表現できない本音の部分を探るようにしている。	利用者の思いを、会話や表情、独自のサイン等で把握し、理念に沿って「生きがいのある、その人らしい暮らし」となるよう家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（ぬり絵、パズル他）や家事（炊事や洗濯物たたみ他）の取り組みも、心身の状況に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には感謝や評価を言葉で伝えて達成感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からこれまでの仕事や経歴等を含め情報収集を行うと共に、これまで支援をされてきた関係機関の持つ情報も大事にして、支援に生かす様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、職員から情報収集し、状況を確認している。できることできないことを見極めて支援に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族と介護職員と話し合いを持ち、時々来る知人や親戚にも話を聞きながら、介護計画等を検討している。往診に来られる先生に状況を報告しつつ、意見を頂いている。往診以外の利用者については病院に行くようにして意見を伺っている。	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示、モニタリング等での職員の意見を基に、生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は業務日誌やケアチェック表等で共有し、利用者の状況変化には計画の見直しや修正を行って改善に取り組んでいる。計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄関係においては日々の心身状態の変化やBPSDに直結しやすいので、記録を振り返りながら排泄の促しや水分摂取の声かけに繋げ、かかりつけ医とも連携をとりながら実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた対応が必要な場合には、できるだけ応じるように努めている。買い物支援や外出希望、病院受診の支援とご家族にも協力を頂きながら柔軟な対応をとっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や隣接する児童クラブ、幼保連携型認定こども園、小学校などの交流を通じて見える関係を築くようにしている。特に子ども園の交流は楽しみの場になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には基本ご家族に対応して頂き、今までの関係性を継続しながら支援を行っている。ただし、ご家族対応が難しい場合には協力医の往診をお願いしている。受診の際には、日々の様子やバイタルサインの記録を添付し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人及び家族が希望する医療機関での受診を継続しており、通院時の同行は原則家族の対応としている。利用者の状況により、訪問診療が定期的実施され、他科受診についても家族と連携して支援している。日頃から看護師が主となって利用者の衛生や健康管理を徹底し、協力医療機関との医療連携体制を構築して適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、24時間連絡が取れるようにしている。日々の状況を確認しながらかかりつけ医との連携を図っており、必要に応じて受診等の同行や情報提供を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、ご利用者の情報提供書を基にご利用者のADL、身体状況の情報を伝えている。また、退院時のカンファレンスに参加し、適切な情報を基にサービス提供を行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、その都度ご家族やかかりつけ医と話し合いながらその時の事業所でできることを伝えるようにしている。看取りについてもご家族が希望されるのであれば話し合いを持ち、ご家族にも協力を頂きながら対応している。	重度化や終末期については指針を整備し、本人及び家族にも説明して同意を得ている。看取りの対応については利用者の状況変化に応じて随時意向を確認し、終末期には家族や関係者は十分話し合っ可能な限り希望に沿った体制を構築しており、これまで多数（本年度は2件）の看取りを実施している。看取りに関する研修や意見交換の実施で、職員のスキルアップや不安の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で事故発生時の対応について勉強会や消防訓練等を活用して実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を定期的実施している。エリア毎においても豪雨災害、噴火を想定して実施している。火災における避難訓練を年2回実施している。</p>	<p>年2回（1回は消防署立ち合い）、夜間を含む火災発生を想定した防災訓練を実施し、併せて通報装置や消火器の取り扱いの研修も行っている。地震や桜島大噴火を想定した自主訓練を実施し、日頃から避難経路や通報等の確認に努め、テレビ等の災害報道も話題にして防災への意識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、懐中電灯、防災ラジオ、カセットコンロ等を備えており、水や食料品も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入退室時、声かけノックし入室する事への挨拶を実施している。排泄時には外に出て待つ等の配慮をしている。一人で入浴をしたいというご利用者についても安全を配慮しながら要望に応えられるようにしている。	プライバシーの保護や個人情報の取扱いについては研修の実施で理解を共有しており、尊厳や誇りを傷つけるような言動を行うことのないように常に留意している。不適切な言葉やケアに対しては、その都度注意し合って改善を図り、入浴や排泄時の支援には羞恥心にも配慮している。ホームはプライバシー保護に配慮された構造で、園便り等への氏名、写真の掲載についても事前に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に応じるように配慮しているが、なかなか思いを伝える事が難しくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や意向に対しては極力それに沿うように配慮している。ここの生活リズムやペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご利用者の希望や、季節にあった身だしなみができるようまたご利用者の楽しみに繋がるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の気分やタイミングによるが、簡単な手伝いを頂いたり、味付けの確認、盛り付け、配膳、後片付けと手伝って頂いている。	日常の会話から希望食等をくみ取り、頂いた野菜も活用しながら、栄養バランスや形態、代替食、盛り付けなど食事が楽しみとなるよう工夫し、職員も一緒に歓談しながら食事している。正月や敬老会、誕生日等の行事食や外食、家族との会食、あく巻きつくりやそば打ち等も実施し、利用者も食材の下処理や配膳等を楽しみながら行っている。口腔ケアもケアプランに添って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量が把握できるように統一した記録用紙を活用し体調管理に努めている。ご利用者の嚥下状態に合わせて臨機応変に食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今までの利用者の生活習慣によるところがあるが、基本毎食後の口腔ケアを推奨している。ただ、強制はしていないので入居者の事情に合わせている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をすることに取り組んでいる。夜間オムツを使用している利用者も排泄能力に応じて、日中はトイレに座り、排泄が出来る様に支援を行っている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、見守りや声かけに配慮して可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人一人の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて取り組んでおり、リハビリパンツから布パンツへの改善も見られている。便秘の予防に乳製品や水分の摂取、運動量に配慮し、主治医の指示も得ながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今までの生活習慣の中で便秘であった利用者には、薬に頼わざるを得ないことがある。食事の工夫（乳製品の摂取）や水分、運動などの対策も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望に応じて楽しめるように配慮している。また、入浴剤を活用しリラクゼーション効果と保湿効果を高める支援を行っている。	利用者の心身の状態に配慮し、状況によってはシャワー浴や清拭に変更しながら、基本週2回の入浴をゆっくり楽しめるように支援している。入浴日や時間や温度、同性介助等は意向に添って柔軟に対応し、入浴をためらう利用者には、時間及び職員の変更や声かけ等を工夫して、利用者の主体的意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中でご利用者個々の日中の活動を支援し、夜間によく睡眠がとれるように努めている。季節に応じた温度管理も心がけ快適に休息が出来る様にしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の綴りで情報の共有化を図っている。排便コントロールに関してはその日の状況等で調整をせざるを得ない。職員の連携を図りながら支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの生活習慣の中で受け継がれてきた作業を中心として、伝える喜びや役割を感じて頂く機会を作っている。また子供たちの交流は楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を図る意味で、地域の馴染みの場所に連れ出している。個別においても希望があればその場所のできる限り連れて行っている。難しい場合にはご家族に協力を頂き対応している。	利用者の心身の状態や天候に配慮しながら、日常的に園庭及び周辺の散歩や日光浴、買い物、通院等に出かけている。墓参りや一時帰宅、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節ごとの花見や「山田地区の案山子」、「思い川の鯉のぼり」等の見物、地域のイベント（夏祭り、運動会他）など、全員での外出も車いす対応車を活用して実施しており、利用者の楽しみとなっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の現金の管理は他者に渡す危険性が高く忘れてしまうので、数千円単位の少額を持っていたり、買い物へ出かける事もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望等もあるため適宜支援を行っている。また、年賀状を出し、つながりを感じてもらうような支援を実施している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感が出るような装飾を利用者にも手伝ってもらいながら作成して飾っている。気温や湿度の管理を行い、快適に生活が送れるようにしている。場所の認識ができない利用者もいるために居室前に名前の掲示をしたり飾りつけをして認識しやすい取り組みを行っている。</p>	<p>余裕のある廊下やリビングは明るく開放感に満ち、住民のグランドゴルフや認定こども園が間近に眺められ、活花や利用者の作品、外出時の写真等が飾られて和やかな雰囲気である。対面式の台所からは調理の音や匂いが伝わり、畳部分もあり、随所にベンチ等が設置されている。テーブルセットやテレビ、長椅子、加湿器等が利用者の動線や利便性に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等も徹底されており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関、ホールにソファを置き、気の合う利用者同士が話をされたりくつろいだりしている。廊下にも椅子を置き自由に会話できるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使用されてきた家具やテレビ、写真など使い慣れた物を持ち込んでもらい、それぞれが好きなように配置し使用して頂いている。</p>	<p>フローリングに腰高窓の居室は明るく余裕があり、エアコン、箆笥等が備えられ、また、自室を確認できるように入口には名前や飾りを取り付けるなど工夫されている、利用者の意向に沿って清掃や換気等を支援し、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、家族写真、衣装ケース等を持ち込み、また、誕生日祝の色紙や自身の作品も飾って、家庭同様に居心地の良い雰囲気となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関の段差と畳の段差が一番大きいものであり、その他はあまり大きな段差はない。玄関では座って靴が履けるように椅子を準備している。トイレ、浴室、廊下など手すりを設置し安全と自立への配慮をしている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない